

絵本で楽しい
子育てを！山田 節子 さん
Setsuko Yamada児童書を楽しむ会
つくしんぼ

絵本への思い

『児童書を楽しむ会つくしんぼ』は、絵本の読み聞かせのボランティアグループです。平成5年10月に発足し、メンバーは30代から70代までの15人。気高町内の各幼稚園、保育園、小学校で月1回読み聞かせを行うなど、地域を中心に活動しています。平成16年にはその功績が認められ、文部科学省から「子ども読書活動優秀実践団体」として表彰されました。

『つくしんぼ』の代表を務める山田さんは、きっかけに

ついて「自宅で息子のために買いそろえた絵本などを貸し出す『家庭文庫』の活動をするうち、たくさんの子どもたちに本の楽しさを直接伝えたいという思いが募ってきたんです」と当時を振り返ります。そんな山田さんの思いに共感した人が集まり、『つくしんぼ』が発足しました。この時の気持ちを山田さんは「同じ思いの人がこの町にもいるんだ！と感じ、とてもうれしかったです」と笑顔で話します。

当時の気高町には図書館もなく、子どもたちが本に触れる機会があまりなかったためか、興味を示す人はほとんどなく、参加者はわずかでした。「ショックでした。自分たちの活動は必要とされていないのではないかと悩みました。みんなで今後どうすればいいか何度も話し合い待つのではないかと、こちらから子どもたちがいる場所に向き、おはなしを届けるといふ、今の形を考えたんです」と山田さん。

園・保育園・小学校に出向いての絵本の読み聞かせがスタートしました。

子どもも大人も楽しんで

「子どもたちが興味を持つ本は、カラフルなかわいい絵のついたものや、スリルがあつておもしろそうなものだけではありません。白黒の絵で、あまり盛り上がりもないと思えるようなものでも、ストーリーがきちんとある本は、子どもが興味を示し、『言葉』と『感じる心』を育んでくれます」。これは、山田さんが子育ての中で息子さんから教わ

動は、町の文化祭で行った「読み聞かせおはなし会」。しかし、

町教育委員会から「巡回おはなし会」の誘いがあり、幼稚

《8月の番組ガイド》

鳥取市行政番組

《放送開始時間》

① 6:00	② 7:00	③ 8:00	④ 9:00	⑤ 10:00
⑥ 11:00	⑦ 12:00	⑧ 12:30	⑨ 13:00	⑩ 14:00
⑪ 15:00	⑫ 16:00	⑬ 17:00	⑭ 18:00	⑮ 19:00
⑯ 19:30	⑰ 20:00	⑱ 21:00	⑲ 22:00	

(放送終了後、次の番組開始までは静止画文字放送)

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週火・金・土

週2回の番組で、鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【特集】

- ▷ 鳥取しゃんしゃん祭などの夏イベント
- ▷ 三都下町物語「HOTトライアングル」
- ▷ ビデオレター『市長からの手紙』
- ▷ 家庭ごみの有料化について
- ▷ 青年海外研修事業



昨年の鳥取しゃんしゃん祭の様子

火曜日は、週末に行われたイベントなどを中心に放送します。

静止画文字情報『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばびよんびよんネット
自主制作番組

《放送開始時間》

① 6:30	② 7:30	③ 8:30	④ 9:30	⑤ 10:30
⑥ 11:30	⑦ 12:30	⑧ 13:30	⑨ 14:30	⑩ 15:30
⑪ 16:30	⑫ 17:30	⑬ 18:30	⑭ 19:30	⑮ 20:30
⑯ 21:30	⑰ 22:30			

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

鳥取特産二十世紀梨の話題や、需要期を迎えたかどうか切り花の出荷の話題を紹介します。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

市内各地の夏まつりや納涼イベント、夏休みの子どもたちが自然と親しむ様子などを紹介します。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

《放送開始時間》7:00、10:00、13:00、18:00、21:00
ニュースや話題、各種行事、お知らせを手話や字幕で紹介합니다。

お知らせ

いなばびよんびよんネットの番組が地上デジタルテレビでご覧になれます。設定や操作方法など、詳しくは下記にお問い合わせください。

情報をお寄せください！

いなばびよんびよんネット ☎ (0857) 22-6111
※放送予定は予告なく変更することがあります。
番組はホームページでも紹介しています。
<http://www.inabapyonpyon.net>



ったことです。いい本に出会うと、子どもたちは目をキラキラさせて、おはなしの中に入り込んでいきます。それを見て、読んでいる大人も喜びを感じ、また読んであげようという気持ちになるそうです。さらに「読み手自身が楽しいと思わないと、聞き手には伝わらないんですよ。おひざにだっこで肌の温もりを感じながら絵本を開き、楽しさの分けっこをしてほしいです。その子が大人になった時、子どものころの楽しい記憶があれば、楽しく子育てができると思うんです。絵本を取り入

れた子育てを、子どもとともに大人も楽しんでほしいですね」と目を輝かせます。

広がるつながり

『つくしんぼ』が蒔いた種は、確実に芽を出しています。気高中学校に読み聞かせの指導に行った時、読み聞かせの前に必ずやる『手あそび』や絵本の内容を、「それ知ってる！」と言ってくれる子どもが多くなってきました。また、県主催の読書フォーラムでパネラーを務めた大学生は、以前読み聞かせをした子どもで、そんな姿を見るたびに、

山田さんは仲間とともに読み聞かせをしてきて本当に良かったと強く感じるそうです。

山田さんは、今後の活動について「今のまま、できることをしていけばいいと思っています。無理をしては長続きしませんから」と、今までどおり“を強調されます。一方で、今年5月には、子どもの読書に関心を寄せる、気高・鹿野・青谷地域の団体や個人による「子ども読書ネットワークけたか」が結成されました。読み聞かせのつながりは、山田さんたちの地道な努力により、確実に広がっています。